

「ポー」の世界

2年 1・Aさん

いのお話に出でたのは「ぼく」から「ポー」、森くんからは「ム」と「ぼく」でござった。いのね「はポー」とよばれた時と、ムとよばれた時の、みんなや氣もがむかうつよつに思つました。ぼくや外のよばれかたによつて、こんな気ふんになるからです。

ぼくの名前は「ムとセセ」であります。園では「むわきあやと」と呼ばれていました。よつね園のアルバムを見ると「むわきあやと」の時のぼくがうつつしています。今でも「むわきあやと」とよばれると、みんなのいにわにタイムスコットに座る感じでいたた樂しこ思つ出の中にむかれる気がします。

小学校に入つてからは先生や友だちから、「ムとセセ」とよばれるようになります。「ムとセセ」とよばれるときはついてぐん強をがんばる氣もになります。大きくなつた小学生をイメージするからです。

スポーツトレーニング教室では「むわきせー!」とよばれています。「むわきせー」と大人からよばれねど、つまつまつついで、体を早くせうかくひかすめりを自分で出します。

家ぞくからは「むわくと」とよばれています。ぼくはむわくとやねやねときにときどき「むわく」とよんでもあります。ぼくさんのよび名かくとくに気についています。自分がかわいこキャラクターになりましたようにかんじるからです。

ねこのポーは、森くんの家では「ム」だったけれど、ひつじこきて新しい町のぼくの家からにげ出でしまつてつらつらしてしまつた。ぼくの「むわくと」みたことすべつなんよぶ名を教へてもらつたのではなく、む思つます。だから森くんの家でアドレセントした「ぼく」の家にあそびに来て「ポー」の時間を使つたのです。